

1 部活動の位置づけ

- ・学校教育の一環として、教育課程との連携を図りながら、学校教育がめざす資質・能力の育成に資するもの。

2 部活動の意義

- ・共通のスポーツや文化等に興味・関心を持つ生徒が集い、技能や知識の習得をめざした継続的な活動のなかで、充実感や達成感を味わいながら個々の能力や個性を伸ばす。
- ・生涯にわたりスポーツや文化等に親しむ態度を育てるとともに、共通の目標を掲げた集団において切磋琢磨するなかで、自主性、協調性、責任感、連体感等を養い、望ましい人間関係や社会的資質を培う。
- ・体力の向上や文化的教養を高めるなど、心身の健康の増進を図る。

3 部活動の課題

- ・競技、種目等の高度化に伴う練習時間、大会やコンクール等への参加機会の増大から生徒、教職員の負担が大きくなってきている。
- ・勝利至上主義的な考え方や生徒の自主性、個別性を軽視した活動に陥らないよう、効率的、効果的なトレーニングの導入などへの対応が必要である。
- ・多くの教職員が未経験の部活動を担当していることや、長時間の活動により教職員の勤務時間が増大している。
- ・生徒数の大幅な減少により、部員数や顧問数が減少して、運営体制の維持が困難な部活動への対応が必要である。
- ・部活動の地域移行について早急に協議をすすめる必要がある。

4 体制の整備

- ・学校の実情に合わせて、部活動や顧問を適正に設置、配置する。
- ・部活動懇談会等を通して、運営方針や指導方針を説明し、家庭と連携した活動を行う。

5 指導の充実

- ・過度な練習やトレーニングが必ずしも体力や技術の向上、知識の習得に繋がらないことを正しく理解し、中央競技団体が作成する指導手引を活用するなど、効率的で効果的な活動となるよう指導を工夫する。
- ・生徒とのコミュニケーションを大切にし、対話を重視した指導を心掛けるとともに、体罰やハラスメントを根絶する。
- ・部活動の運営や競技、種目等の研修に参加するなど、合理的、科学的なトレーニングや活動となるよう自己研鑽に努める。
- ・実態に応じて部活動指導員の活用や地域の指導者と連携するなど、より専門的できめ細かな指導を心掛ける。

6 適切な運営

- ・年間指導計画、月間指導計画等を作成し、計画的な活動を行うとともに、活動実績を校長に報告する。
- ・活動時間は、平日が2時間程度、土日等の休業日は3時間程度とし、完全下校の時間が守られるよう設定する。
- ・休養日は、週当たり2日（平日1日、休業日1日）以上を設定する。大会やコンクール参加などで活動した場合は、休養日を他の日に振り替える。

※原則水曜日がノー部分活デー

- 体育館割り当てで変更する場合あり
- 職員会議、職員研修時、部活動はしない
- ・始業前の朝練習は、顧問の申し出により検討し、生徒や家庭への負担を考慮し、保護者との共通理解を図った上で校長が許可した場合とする。
- ・定期テスト前の停止期間や長期休業中などを利用し、ある程度の長期休養日を設定する。
- ・年度当初に1年間の大会やコンクール参加を見直し、計画的に参加する。また、大会やコンクール参加に伴う生徒、教職員への心身の負担や、校外への移動に伴う交通費等の家庭の経済的な負担に配慮する。
- ・各部の活動は、活動時間や場所等が、顧問以外の教職員にも把握できるようにしておく。
- ・校外で活動する場合は、部活動実施承認申請書を提出する。

7 安全管理と事故防止

- ・生徒の心身の健康状態を常に観察し、生徒の健康安全に努める。
- ・気温や活動内容に応じて、十分な熱中症対策を講じる。
- ・気象状況に関する情報を収集し、生徒の完全確保を最優先に対応する。
- ・練習場所や練習施設、用具等の安全点検を行う。
- ・緊急時に備え、「三木市教職員危機管理ハンドブック」を参考にしながら、緊急時の対処方法を確認する。